

7.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series

1) 学術雑誌『ジェンダー研究』

国内外の執筆者による最新の優れたジェンダー研究の成果を世界に発信

国際的な学術誌として刷新



本研究所が編集・発行している査読付きの国際学術雑誌。前身は『女性文化資料館報』（1979～1987年）、『女性文化研究センター年報』（1988～1996年）で、ジェンダー研究センターの創設に伴い、1998年3月に第1号として創刊された『年報ジェンダー研究』を引き継ぐ年刊誌である。21号（2018年刊行）よりリニューアルした。

本誌は特集論文、特別寄稿論文、投稿論文、書評から構成される。巻頭に掲載される特集論文はその年に特に注目されたジェンダー関連のテーマについて世界第1級のジェンダー学研究者が執筆し、外部評価を得た論文で組まれており、学術研究としての寄与も大きい。特別寄稿論文は、編集部によるオリジナル企画として、学際的・国際的なジェンダー研究の成果を世に問う論文を掲載している。投稿論文は、国内外から投稿された日本語もしくは英語の論文で、国際的に活躍する研究者による外部審査を経て採用された質の高い論文である。書評も近年ジェンダー関連分野で注目された著書をジェンダー関連の諸分野の研究者が評しており、ジェンダー研究の動向を示すものである。

■『ジェンダー研究』22号（2019年7月刊行）概要

特集「安全保障とジェンダー」

『ジェンダー研究』22号は2018年10月13日（土）に開催された日本政治学会『安全保障とジェンダー：フェミニズム・批判理論・ジェンダー主流化（ジェンダーと政治研究会企画）』での議論を基に特集を組んだ。

“Gendered Security: Learning from Being and Feeling Safe on the Island of Guåhan/Guam”（Ronni Alexander）、「武力紛争下の＜女性＞とは誰か——女性・平和・安全保障アジェンダにおける主体の生産と主権権力」（本山央子）、「保守のアジェンダへの女性・平和・安全保障の再構成——カナダのハーパー政権を事例に」（和田賢治）、「批判的安全保障とケア——フェミニズム理論は『安全保障』を語れるのか？」（岡野八代）の4本を掲載し、また「大娘たちとくともに歩む」という＜闘い＞——中国山西省における日本軍戦時性暴力問題をめぐる運動」（大橋史恵）、「沖縄で在日米軍と共に生きる——基地従業員女性の経験の両義性に注目して」（ノーラ・ワイネク・佐藤文香）を特別寄稿として掲載した。

22号巻頭言で申編集委員長が言及したように、本特集は、共通の論題と研究方法を用いる論文をペアとして読むとさらに理解が深まるような構成となっている。Alexander論文とワイネク・佐藤論文は、地政学的戦略的基地として設置されたグアムと沖縄が舞台となり、軍事主義が生活の基盤のみならず自己のアイデンティティまで形成する状況を現地調査から明らかにし、安全保障と脱軍事化という重い課題を読者に突き付ける。和田論文と本山論文は安全保障のジェンダー主流化の成果として打ち出された「女性・平和・安全保障（WPS）」政策の言説分析を行い、UNやカナダにおけるピンク・ウォッシング、ジェンダー・ウォッシングの状況を指摘する。また岡野論文は、主流派の国際政治学への抵抗を試みる対案としてケアの倫理のポテンシャルについて考察し、国際政治の空間を「傷つきやすいもの」同士の倫理的関係として再構築しようとする。

投稿論文は、厳正な審査を経た以下の論文を掲載した。「男性支配的社会における女性間の友情物語——角田光代『対岸の彼女』に見る女同士の絆」（レティツィア・グアリーニ）、「1990年代の「ゲイリブ」におけるゲイとレズビアンとの差異——北海道札幌市における活動を事例に」（斉藤巧弥）、「アーシュラ・K・ル＝グウィン＜アースシー＞“第二の三部作”におけるジェンダー・ポリティクス——ポストフェミニズム、クィア理論、反グローバル資本主義」（青木耕平）、「ジェンダー意識は結婚への移行に影響を与えるのか——パネルデータを用いた男女比較分析」（コルムシ・オリガ）、「強制的な喪の達成——映画『愛しい人が眠るまで』、『オールウェイズ』における遺された女性の欲望形成」（五十嵐舞）の5本である。

書評は、土野瑞穂、Mire Koikari、山本沙希、中村雅子、Annette Schad-Seifert、金美珍、落合絵美、濱田江里子、味岡京子、吉良智子、Maki Isaka、嶽本新奈、佐藤齊華、三部倫子、Nadje Al-Aliの諸氏によって評された15本の書評を収録した。人文科学・社会科学・自然科学領域に至るまでの幅広いフェミニズム、ジェンダー学の先端動向を紹介することができた。

今号も多彩な執筆陣によって、最先端のジェンダー研究の知見が提供されている。

『ジェンダー研究』22号（2019年7月刊行）目次

巻頭言 申琪榮

特集：安全保障とジェンダー

Gendered Security: Learning from Being and Feeling Safe on the Island of Guåhan/ Guam..... Ronni Alexander
武力紛争下の〈女性〉とは誰か——女性・平和・安全保障アジェンダにおける主体の生産と主権権力..... 本山央子
保守のアジェンダへの女性・平和・安全保障の再構成——カナダのハーバー政権を事例に 和田賢治
批判的安全保障とケア——フェミニズム理論は「安全保障」を語れるのか？ 岡野八代

特別寄稿

大娘たちとともに歩む>という<闘い>——中国山西省における日本軍戦時性暴力問題をめぐる運動..... 大橋史恵
沖縄で在日米軍と共に生きる——基地従業員女性の経験の両義性に注目して ノーラ・ワイネク／佐藤文香

投稿論文

男性支配的社会における女性間の友情物語——角田光代『対岸の彼女』に見る女同士の絆 レティツィア・グアリーニ
1990年代の「ゲイリブ」におけるゲイとレズビアンとの差異——北海道札幌市における活動を事例に 斉藤巧弥
アーシュラ・K・ル＝グウィン〈アースシー〉“第二の三部作”におけるジェンダー・ポリティクス
——ポストフェミニズム、クィア理論、反グローバル資本主義 青木耕平
ジェンダー意識は結婚への移行に影響を与えるのか——パネルデータを用いた男女比較分析 コルムシ・オリガ
強制的な喪の達成——映画『愛しい人が眠るまで』、『オールウェイズ』における遺された女性の欲望形成 五十嵐舞

書評

上野千鶴子・蘭信三・平井和子編、岩波書店
『戦争と性暴力の比較史に向けて』 土野瑞穂
Julia C. Bullock, Ayako Kano, and James Walker eds., University Hawai'i Press.
Rethinking Japanese Feminisms Mire Koikari
ライラ・アブー＝ルゴド著、鳥山純子・嶺崎寛子訳、書肆心水
『ムスリム女性に救援は必要か』 山本沙希
ホーン川嶋瑤子著、筑摩書房
『アメリカ社会変革——人種・移民・ジェンダー・LGBT』 中村雅子
Swee-Lin Ho, Routledge.
Friendship and Work Culture of Women Managers in Japan: Tokyo after Ten Annette Schad-Seifert
金英著、ミネルヴァ書房
『主婦パートタイマーの処遇格差はなぜ再生産されるのか——スーパーマーケット産業のジェンダー分析』 金美珍
浅倉むつ子他編著、旬報社
『労働運動を切り拓く——女性たちによる闘いの軌跡』 落合絵美
金美珍著、晃洋書房
『韓国「周辺部」労働者の利害代表——女性の「独自組織」と社会連携を中心に』 濱田江里子
鈴木杜幾子編著、ブリュッケ
『西洋美術：作家・表象・研究——ジェンダー論の視座から』 味岡京子
味岡京子著、ブリュッケ
『聖なる芸術——二十世紀前半フランスにおける宗教芸術運動と女性芸術』 吉良智子
Laura Miller and Rebecca Copeland eds., University of California Press.
Diva Nation: Female Icons from Japanese Cultural History Maki Isaka
柳原恵著、ドメス出版
『〈化外〉のフェミニズム——岩手・麗ら舎読書会の〈おなご〉たち』 嶽本新奈
堀江未央著、京都大学学術出版会
『娘たちのいない村——ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』 佐藤齊華
神谷悠介著、新曜社
『ゲイカップルのワークライフバランス——男性同性愛者のパートナー関係・親密性・生活』 三部倫子
Nadia Yaqub and Rula Quawas eds., University of Texas Press.
Bad Girls of the Arab World Nadje Al-Ali

編集後記

編集方針・投稿規定

■『ジェンダー研究』22号（2019年7月刊行）編集委員会

編集委員長

申 瑛榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

石井クンツ 昌子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所、基幹研究院人間科学系
天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院文化科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
Jan Bardsley お茶の水女子大学ジェンダー研究所

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
小浜 正子 日本大学文理学部
Karen Ann Shire ドイツ デュースブルグ・エッセン大学 教授

編集事務局

大野 聖良 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
平野 恵子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
仙波 由加里 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
和田 容子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

2019 年度は、成果発信シリーズ IGS Project Series の報告書刊行はなかったが、年度内に実施された国際シンポジウムと特別招聘教授プロジェクトの成果の取りまとめが進められている。国際的プロジェクトについては日英バイリンガルでの作成を目指していることから編集作業に時間がかかり、刊行がおくれがちになっているが、引き続き、事業成果の国際的発信に努めたい。



IGS Project Series 24

国際シンポジウム

哲学者と皇太子妃

冷戦期日本における自由と愛と民主主義

(2020 年夏刊行予定)



IGS Project Series 25

特別招聘教授プロジェクト特集

ジャン・バーズレイ

(2020 年夏刊行予定)